

第 1 回 新市立湖西病院建設基本構想検討委員会の概要

開催日時 令和 6 年 9 月 6 日 (金) 14 時 00 分 - 15 時 15 分
会 場 湖西市健康福祉センター3階 研修室
議 題 (1) 基本構想検討委員会の役割及び検討体制について
(2) 基本構想策定のスケジュールについて
(3) 基本構想(案)について

1 基本構想検討委員会の役割及び検討体制について (資料1～3)

2 基本構想策定のスケジュールについて(資料 4)

【委員からの意見】

山本委員

- ・ 現市長の任期が 12 月 5 日までであり、11 月に選出される新市長の意向を踏まえた基本構想にすべきと考える。パブリックコメントの実施時期は、後ろにずらす必要があると考える。

3 基本構想(案)について(資料 5)

【委員からの意見】

竹内委員

- ・ KDB や DPC データによる経営分析を教えてください。
- ・ 令和 6 年度からの 6 年間を対象とした静岡県保健医療計画が更新され、令和 8 年度に中間見直しも控えている。それらを見据えながら、医療政策を検討する必要がある。
- ・ 令和 3 年度の劣化診断調査で「長寿命化と建替はお金が変わらない」という結果が出ているが、新築工事は建築資材の高騰や人手不足などで工期が長引いている。現在、建替がどれ位の財政規模になるか確認した方がよい。
- ・ 広域的な視点で地域完結型の医療提供体制を整備することは正しい。湖西病院でどこまで医療を診るかがキーポイントである。

榛名委員

- ・ 建物が新しくなっても、医師が確保されないと、今以上の医療提供は難しい。継続して確保に向けてやってほしい。湖西病院には二次救急を担ってもらっており、今後できるだけ病院で患者を受けてもらいたい。また、新病院では、新型コロナや南海トラフ地震への対策を踏まえて、ハード面を考えてもらいたい。

彦坂委員

- ・ 湖西病院は市民にとって「なくなったら困る」医療機関である。市が補填しながら病院経営をすることについて、いろいろと言う人がいる。湖西市の財政も厳しいため、大規模な事業を実施することを不安に思う意見もあるはずである。本業で儲けることを考えないといけない。新病院にどういう機能を持たせるか、議論・検討して軸にしてもらわないといけない。
- ・ 市内の個人病院は、医師の高齢化や跡継ぎ不足により、閉院しているところがある。個人病院が継続していけるか不安がある。市民が安心を持てるような議論をして、新病院につなげられたらと考える。

太田委員

- ・ 日曜と祝日の日直は、輪番制による開業医、湖西病院、浜名病院が担っている。現在、輪番制に約 20 医院に協力いただいているが、新規開業がない場合、10 年後に半減し約 10 医院になると予想される。そのため「Medi-Net(メディネット)こさい」を立ち上げ、持続可能な救急医療の提供体制を話し合っている。

安形委員

- ・ 基本構想を作る上で、将来のあるべき姿が記載されるとよい。

鈴木委員長

- ・ 病院の経営状態は、現在どうなっているか。
 - 経営は少しずつ改善しており、繰入金も減らしている。ただし、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大等、想定できない事象が発生することがあり、今後の見通しを予想するのは困難な面がある。

山口委員

- ・ 特別養護老人ホームでは、湖西病院との連携が入所者の安心感につながっている。救急におけるつながりを頼りにしている。

竹内委員

- ・ 救急搬送患者の約3分の1が市外に流出している。急性期病院からリハビリを担う病院へのバックトランスファー（逆搬送）が主流になる中で、市民の患者をいかに早く戻していただくかが課題であり、医療ができる体制を作る必要がある。リハビリ関係のスタッフをいかに抱えるか検討しないといけない。

鈴木委員長

- ・ 他の医療機関との連携について、浜松医療センターとの連携状況を教えてほしい。
 - 連携の仕組みを整備した段階であり、今後、具体的な内容を詰め、連携を強化していく。
 - また、当院の特徴として循環器系疾患を専門とする医師が多く、こうした疾患を抱えた患者については、聖隷と連携して紹介してもらう仕組みづくりを行っている。

小倉委員

- ・ 新病院の建設候補地の選定について、土木、建築、都市計画の担当部長として協力していきたい。